

1、ごみ処理のあり方について

(1) 埼玉中部資源循環組合焼却炉建設の進捗状況について

(2) 嵐山町の焼却ごみの収集・吉見町大串までの搬入は、これまでと同様に委託となる。

収集運搬・搬入にかかる

労務時間及び経費について稼働時、20年後の予測は。

(3) 不燃ごみ・プラスチック類・資源ごみは、小川地区衛生組合で行う。可燃ごみは、吉見町大串での処理になる。小川地区衛生組合管内町村は、ごみ処理を2つの広域組合で行う。資源循環組合施設建設及び稼働後のごみ処理費の嵐山町財政への負担予測を聞く

(4) 吉見町地元では、資源循環組合だよりの配布、説明会開催がある。地元以外は、説明会開催要請があれば開催するということであった。しかし、DBO方式では20年間事業者と契約となる。

9市町村とも20年後の人口減少は確実である。将来の財政負担・吉見町地元の環境への影響を考えると組合だよりの組合構成自治体住民への配布・説明会開催は必要である。方向を聞く。

2、こどもの価値観の評価について

(1) 小学校では、本年度から道徳が教科として、生き方の価値観等が、評価の対象になる。本年度から、このような価値観の評価について、現場は混乱していると考えが、学校では、どのように道徳を教科として教え、評価していくのか。

(2) 中学校「道徳」の教科書選定は、6月中旬から8月に行われる。

教科書選定の視点を聞く。

(3) 「嵐山町いいとこスピーチコンテスト」は、子どもの価値観を賞で評価するものとなっている。コンテストではなく、大人に子どもの感じ方や考え方を公表する機会の一つにするべきだが考えを聞く。

3、中学の制服・体育着について

(1) 菅谷中・玉ノ岡中共、男子は詰襟の学生服、女子はセーラー服、夏はワイシャツである。電通の調査では、7.6%の人がLGBTに該当するという結果である。学校の統廃合が課題になっている現在、男子も女子もブレザー・スラックス・スカートを選択でき、夏はポロシャツもとりたい、両中学とも、共通する制服の検討について聞く

(2) 中学生の体育で着用するジャージや体操服に学校名・名前が書かれている。登下校にも着用するので、個人の情報が外部の人にわかるのは危険である。体操服やジャージに校名・名前記入をやめるべきだが考えを聞く。

4、幼稚園・小中学校の学校行事への来賓対応について

幼稚園・小中学校の行事において、学校側は来賓として、議員等を招待する。招待する学校は丁寧だが、主役は当事者の幼稚園生・小中学生である。学校行事は、当事者主役にするため以下の考えを聞く。

- (1) 来賓に対しての過度な「礼」はやめる
- (2) 来賓の挨拶は、一人に絞る
- (3) 国会議員の祝電披露はやめる。

5、保育園の紙おむつについて

現在、日本の保育園では使った紙おむつは持ち帰りであるという。嵐山町の状況を聞く
保育園の使用済みの紙おむつは、一般廃棄物として保育園で廃棄し、又、その経費は町負担にすべきだが、考えを聞く

6、地域公共交通のあり方について

嵐山町の公共交通は、タクシー補助券の取り組みで終わっているが、学校統合、子どもの登下校の安全等も考慮し、地域公共交通を再検討すべき時期に来ている。考えを聞く。